

ティーチング・ポートフォリオ

大学名	湘南医療大学
所属	薬学部
名前	小野塚 真理
作成日	2023. 11. 10

1. 教育の責任

湘南医療大学薬学部の教育理念は、グループ全体の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」に基づき、人間の生命や尊厳を理解できる豊かな人間性と「薬学の医療専門職」としての知識・技術を習得して、保険、医療、福祉、教育の幅広い分野で地域の健康増進・公衆衛生を支え、寄与・貢献できる医療人を要請することである。

また、本学部の教育目標は学生が次の5つを身につけることとしている。

1. 人間及び生命への尊厳を理解し、医療人としての幅広い教養と科学的・論理的思考力および、生涯学び続ける基礎的な知識と研鑽及び態度
2. 患者に質の高い薬物治療を提供できるように医師など多職種と連携したチーム医療に必要なコミュニケーション能力
3. 薬学基礎知識・技術を用いて問題を発見し解決するために、医療現場における薬剤師に必要な診療支援能力
4. 薬学、医療の進歩と改善に資するための研究マインド
5. 地域の健康増進や公衆衛生について科学的根拠に基づいた問題発見・課題解決能力

以上より、最適な薬物治療を遂行するために必要な薬学的知識や技能だけでなく、医療人として幅広い視野と能力を兼ね備えた薬剤師の育成を目指している。

担当科目(2023年9月現在):

薬剤学Ⅰ・Ⅱ(医療薬学科 必修、3年次 前・後期)

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私が担当している薬剤学は、薬物を形(剤形)として設計、製造、投与し、最適な治療効果を得るまでの過程の全てを担う薬学特有の重要な学問である。学際領域の学問であり、物質科学や生命科学分野など広範で総合的な基礎知識の習得が必要不可欠と考えられる。薬剤学で習得した内容は、薬物動態学、調剤学および薬物治療学の基礎となり、さらに3年次後期からの始まる事前実務実習、薬局実務実習および病院実務実習へと発展していく。そのため、他の専門科目と連携をとりながら一貫性のある教育となるよう心がけ、学生が将来医療人として実践的な知識と経験を積み重ねていく礎となる講義を目指したい。

2) 理念をもつに至った背景

薬物は疾病の予防、診断、治療を目的に使用されるが、そのリスクとベネフィットは表裏一体である。生命科学の急速な進歩に伴い今後も医療は高度複雑化していくことから、

薬剤師には薬物治療について他の医療専門職との直接的な話し合いを行うと同時に、患者自らが薬の使用に関する意思決定を行えるように患者への適切な情報の提供や、その意思決定への支持と理解がさらに一層求められている。物理・生物薬剤学的視点から、医薬品の物性を理解した上で、個々の患者に適した処方（製剤設計）を行うことは、医療の現場において、薬剤学を習得した薬剤師の本領が発揮できる分野であると考えている。またこのことは、個々の患者に合った薬物治療の実現においても非常に重要であると考えられる。薬剤学は薬物動態学と併せて薬学教育の中でも基礎薬学から臨床薬学へとつながる重要な位置にある科目であり、薬剤学の幅広い知識と技術を兼ね備えた薬剤師の育成が必要であるとする。

3. 教育の方法・戦略

薬剤学では物理学・物理化学を基盤とし、「薬物と製剤材料の物性に関する基本事項」を習得する。薬剤学Ⅰ（前期）では、患者が「医薬品」をより良い状態で使用できるように、設計・製造するために必要な知識を学修する。薬剤学Ⅱ（後期）では、薬剤学Ⅰを基盤とし、製剤の種類、製造方法、および品質管理に関する基本的事項を学修し、さらに薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫したドラッグデリバリーシステム(DDS)などに関する基本的事項を学修する。適切な剤形と薬物動態的な特徴を考慮して、個々の患者に合った薬物治療を提供する力を習得することを目標としている。

方針

講義は教科書を中心とし、それ以外に資料を作成し補助的に使用している。復習テストを行い、学生の理解度の確認を行い、それに応じて各回の講義の始めに前回の内容を復習し振り返りの時間を設けている。

方法

1. 教科書の指定箇所を予習し、授業後の小テストにより知識の確認を行う。
2. 授業始めに前回の学習内容を復習し、知識の再確認を行う。
3. 特別活動(補講)において、総合的な復習を行うと共に、過去の国家試験問題を用いて実践的なトレーニングを行う。
4. 定期試験により、総合的な知識の定着を図りながら、CBT や国家試験を意識した学習を促す。

4. 学習成果

3年生に対し、8月(追再試験は9月)に薬剤学Ⅰの定期試験を実施した。後期の薬剤学Ⅱは、前期の薬剤学Ⅰを基礎とし進めていきながら、学生たちの幅広い知識と技術の

習得を目指す。

5. 改善のための努力

薬剤学は薬物動態学と併せて薬学教育の中でも基礎薬学から臨床薬学へとつながる重要な位置にある科目である。しかし、学生にとっては初めて見聞きする専門用語が非常に多く、概念も理解が難しい内容が多い。そのため、学生がイメージしやすいように、できるだけ身近な内容を例にあげながら説明を行い、授業理解度の向上につなげていきたい。小テストやアンケートなどを利用して学生の不得意分野、理解の低い項目などを抽出し、必要があれば補講等も行なっていく。また復習だけでなく、個々の学力を更に向上させるような授業改善や資料提供などの工夫もしていきたい。

6. 今後の目標

最新の技術や知見の収集、授業改善の工夫を続け、学生に分かりやすい授業展開を行う。